

【第5回総合計画策定審議会】

■日時：2022年12月15日（木）14：00～16：00

■場所：中城村役場4F 議会委員会室

■出欠：

- ・出席：神谷委員長、新垣委員、比嘉（善）委員、山城委員、安田委員、平安委員、米須委員
儀間委員、比嘉（春）委員、伊東委員、伊佐委員
- ・欠席：1名（名幸委員）
- ・事務局：企画課、ST

■次第：

1. 開会
2. 報告事項
 - （1）前回審議会のご意見と対応方針（資料1）
 - （2）前回パブリックコメントのご意見に対する回答方針について（資料2）
3. 協議事項
 - （1）第五次総合計画（素案）について（資料3）
 - ・基本理念の追加について
 - ・基本計画について
4. その他
 - ・スケジュールについて（資料4）
5. 閉会



■議事録：

1. 開会

2. 報告事項

(1) ご意見と対応方針 (2) パブリックコメント意見案(説明：比嘉係長)

神谷委員長 : 村の扱いに関しては当初案に戻った感じになっている。その他ご意見等あれば。
→特になし

3. 協議事項

(1) 総合計画素案について(説明：比嘉係長)

神谷委員長 : ご質問、ご意見があればお願いします。

比嘉(春)委員 : P37 支援を必要とする園児への体制強化。支援が必要な子どもが増えている中で、保育園で支援するには限界がある。他市町村ではそういう園児を支援する施設があるが、中城村にはない。学童についても支援が必要な子への対応が不十分になりがちで、親が仕事を辞めている。専門的な施設も今後検討していないといけない。保育士が少ない中で、保育士だけによる学習機会の創出だけでは難しいのでは。

事務局(比嘉課長) : 村としては加配などで対応していただいているが、それでは足りないということか。

比嘉(春)委員 : 加配の保育士よりも、より専門性が必要な子どもが増えているということ。

事務局(比嘉課長) : 具体的には民間が実施している施設になるのか。それとも業者なのか。

比嘉(春)委員 : 社協(宜野湾市)や発達支援センター(沖縄市)。役場で言語指導などもできるが、充実した支援を受けるためには専門的な施設が必要になるのでは。

事務局(比嘉課長) : 直接の担当は福祉課やこども課なので、自分は把握できていない。村で施設ができるかどうかはわからないが、検討は必要になるのではないかと感じた。

神谷委員長 : 特別なサポートが必要な子どもに一人ひとり対応するのは難しいと思う。村ができないことは県や他市町村に繋ぐという文章を入れておいたらいいのでは。どこに相談したらいいのか分かるようにしておく。

山城委員 : P76-77。新エネルギーへの取組み推進の所管課は企画課になっているが、脱炭素が関係するならもう少し横断的に関係する課を入れて置いたらいいのではないかと思うが、そのような議論はあったのか。

企画課(比嘉係長) : 基本的に脱炭素関係は環境の部署で担当が、取組みによっては直接的に気候変動が絡まないところもあるので全体を統括する意味で企画課になっている。脱炭素が絡む部分があるので住民生活課とも調整したい。

儀間委員 : P74。村内の草木はどう処理しているのか。資源として活用するというのを今後考えているのか。

事務局(比嘉課長) : 基本的に燃やしている。担当課が民間との連携で資源にできないかという検討をしているようなので、今後何かしらあると思うが実施には至っていない。

儀間委員 : 資源として活用できるのであれば、植物由来の堆肥などが作れるのではないか。それをできれば村が買い取って自治会などに提供することで、リサイクルとしての活用ができるのでは。

神谷委員長 : P75 一人当たりのゴミ排出量。基準値の181t以下となっているが、それなら左側はゴミ搬入量ではなく、一人当たりとした方がいい。グラフのゴミ搬入量は減っているのか増えているのか。現状がどうだからという現状と目標がつながるように。他にも言えるが、対応した図を入れること。一人当たりのゴミ排出量は家庭のみなのか、事業系が入っているかによっても違う。

- 伊東委員 : P60-61 沖縄市の生涯学習フェスタに行ってみた。そこで防災の告知や非常食を配布したりしていた。村内にサークルや団体がどこまであるかわからないが、同じようなイベントなどいろいろ絡めて村が主導できるものがないか。
- 事務局（比嘉係長） : 担当課レベルでは考えているようなので、担当課に伝えておく。
- 伊佐委員 : P78 整備保存についてはもちろんだが、活用方法に関して。ハンタ道沿いに住んでいるが米軍関係の人がランニングとかで使っているのをよく見かけるが村民の利用が少ないように感じる。村民に愛される整備、どういうイベントをしようなどイメージしてもいい。南上原はニュータウンの散歩道、新垣などはジャングルの中を歩いているイメージで変化があって面白い。地域の人に利用されないと勿体ないので、色々な活用方法があればいいと思った。
- P122～124 避難が難しい人に対しての避難場所の整備や避難方法。避難場所は役場や吉の浦など想定できるが、そこまで行くのが難しい人などはどうするのか。字の区民館に何日も避難するのは難しい。防災計画にあるかもしれないが、土地の使い方、整備の仕方など防災に対して行政がどのように手を入れていくか行政としてのプロセスが見える計画があるといい。防災について、雑地や農地所持者への何かあった時の土地売却の同意の説明は雑すぎるので、特に金額の面についてビジョンで示してほしい。
- 事務局（比嘉係長） : 防災については地域防災計画の見直しが計画されている。総務課や福祉課にヒアリングする中で、お手伝いが必要な人に対してどうするのかという話にはなかった。今後は地区防災計画のようなより細かい計画で見て行く。
- 神谷委員長 : 地区防災計画ではなくて、避難行動要支援者については行政が個別支援計画をつくる。そういう人たちに対応できる避難所（福祉避難所）の設定や災害の種類などによっても違う。村だけで難しい場合は周辺の市町村との連携も有りだと思う。県外では、津波であれば高台の老人施設やホテルを活用する事例がある。また内閣府では、障がいのある子どもなどの場合は通っていた学校を一時的に避難場所に使用することを推奨している。
- P124 の関連計画の修正を。国土強靱化計画ではなく国土強靱化地域計画では。先ほどのイベントの話に補足すると、今までのイベントは生涯教育のイベントのように目的があるイベントだった。人が集まるイベント+行政の話など、メインに付属させるような複合的な話の作り方をするとよい。
- 安田委員 : P39 中城村独自のごさまる科などは今後も続けてほしいが、指導する先生も大変なので、行政からも支援をしてほしい。支援を必要とする児童生徒の中に不登校の人がいることも意識してほしい。学校の敷地に入れられないという子どももいるので、連携して対応もしていただければありがたいと思う。
- 事務局（比嘉課長） : これまでは吉の浦の相談室があって、現在もあるが教育委員会の考え方としては、なるべく学校の会議室などに相談員を配置してそこでやっているとのこと。そこで対応できない場合は吉の浦の相談室と考えている。
- 安田委員 : 教育委員会で考えているということではいいが、支援を必要とする児童生徒の中に不登校の人がいることも意識してほしい。学校の敷地に入れられないという子どももいるので、連携して対応もしていただければありがたいと思う。
- 事務局（比嘉係長） : 不登校の対策とこちらの思っていた支援が必要な児童生徒については違いがあるので、教育委員会と調節し別に記載にする。
- 神谷委員長 : P39 人材バンクとは何か。
- 事務局（比嘉） : 地域の方で特技（スキル）などがある方を登録しておいて、各学校から要望が

- 課長) あった時に派遣している。
- 神谷委員長 : 保育士の所で保育士不足が課題として挙げられていたが、それに対する対応が書かれていない。保育士免許保持者が補助として派遣されるような人材バンクを想像したが、どの程度の補助員が必要なかわからない。課題は記載してあっても取組みが対応していないのが気になった。
- 安田委員 : 地域防災について訓練を取り入れるという説明があった。自然災害については色々書かれているが、対外的な防衛について全国的な問題でもある。ミサイルが来てアラートが鳴ってもどうしたらいいかわからない。基地の多くがある沖縄県ではありえない話ではない。本当は地下があるのがいい。国家の有事についての意見はなかったか。
- 事務局 (比嘉係長) : 一市町村で出来る範囲に限られている。Jアラートなどは全国全市町村できているはずだが、避難となるとその議論まではできていない。
- 米須委員 : P93 護佐丸バスは基本的に村の方が利用していると思うが、浦西と接続が可能であれば観光客の利用も増えると思う。そうなる観光スポットでの周回やキャッシュレス対応なども需要が出ると思うがどう考えているか。
シェアサイクルのステーションを沖銀に設置してあるが、自転車がないことの方が多。公園などにはたくさんある場合もあるので、バランスの問題なのか、台数がそもそも足りないのか、どこかに滞留しているのか。シェアサイクルについてはどういう管理をしているのか。
- 事務局 (比嘉係長) : 県の交通政策課が主体となり中部管内の交通連携の組織が出来ている。琉大東口からてだこ浦西までのシミュレーションをしているが、護佐丸バスルートに含めると浦西まで行くのは時間的になかなか難しい。護佐丸バスと民間路線バスの接続はできているという考えでいくのか検討中。観光地の周遊バスについては中城の観光スポットは文化財が多いので、近くまで行って散策して楽しんでもらう形になる。散策マップを作成するような対応になるだろう。キャッシュレスについては現状搭載できていないが、問い合わせも増えているので検討する必要がある。シェアサイクルの管理は民間会社に委託している。当初の予定では行ったら返ってくると思っていたが、行きっぱなしで那覇市内で乗られていたりするようだ。今は車に積んで戻しているがそれが追い付いていない状況なのでステーションの場所を増設するかなどは今後の検討にしたい。
- 神谷委員長 : P92-93 地域公共交通計画というワードを入れたほうがいい。来年度沖縄県が広域幹線に関する地域公共交通計画を作成する。その翌年から各市町村で計画をつくらないと、国補助が入っている路線に対して補助が下りなくなるので市町村の負担が増える。計画はあるか。
- 事務局 (比嘉係長) : ない。
- 神谷委員長 : ないと補助が下りなくなる。県の基幹ルートについては県が作成するので、地域公共交通計画というワードを入れたほうがいい。
シェアサイクルについては80台くらい購入されているはずなので、持ってきてほしいという事は強くいった方がいい。あるところとないところがあることについては、カードで鍵が開くので役場やステーション設置しているところで動かせないか交渉はしてもいい。年明けから北中城にも設置されるはず。北中城村の観光周遊バスとの継接の話があったと思うが、そこも含めた地域公共交通計画でもいい。共同のまちづくりはどこにいった？
- 事務局 (比嘉係長) : P87の11-1 多様な都市計画のあり方検討という形で、分野19の内容はここにきている。文言としては消えているので共同のまちづくりはここに追記す

- る。
- 神谷委員長 : 共同のまちづくりありきの中部広域だと思うので、共同のまちづくりは言葉として入れておくように。中城城跡でのバスの結節の話が会議に出ていたので合わせて書いておく。
- 平安委員 : P106 農業の振興 幼児教育の面からの話だが、年に1回読谷村に芋ほり体験に行っている。そうしないと畑や土に触れることのない子どもが多い。きゅうりは土に埋まっていると思っている子供もいる。独自に畑を持っている園はいいが、そうでない園でも利用できるといいと思うので、遊休農地の活用方策の一つに園児や児童の利用も考えてほしい。
- 事務局（比嘉係長） : 担当課に聞いてみる。村も試験農地を持っているので、その一部を借用できるのか、土地を遊ばせている農家があれば紹介してもらえないかなど。
- 比嘉（善）委員 : 農業の振興、食農という考え方もあって良いと思う。ニンジン嫌いにニンジン植える所からやってもらうなど。JAも協力できるところはする。
- 神谷委員長 : P107 に遊休農地解消等に係る事業等の活用促進などあるが具体的な言葉がないので、括弧書きで教育の場としての活用などの言葉も入れて置いたらどうか。
- 伊佐委員 : P12 基本理念5の追加はいいと思う。児童発達支援センターなど市は大丈夫だが、町村は子どもの数も少ないのでなかなかできない。例えば宜野湾だと対象者は多いけど土地がない。中城は土地を貸せるけど対象者が少ない。であれば周辺と連携して取組む方法を考えてみても良いのではないかな。
- 神谷委員長 : 全部自分でやる必要はない。うまく周辺と連携していけばよい。事務局で気になっている所はないか。
- 事務局（比嘉係長） : 保育士不足の課題に対する対応が書かれていないという指摘があったが、P113 に保育士に特化したものではないが追加をしている。資料1にも記載しているが、関連性が分かりにくいという事であれば取組みの方にも記載する。
- 神谷委員長 : 出来上がったものだけをみると結びつかない。完成版だけ見てもわかるように書き方を工夫してもらえれば。
- 比嘉（春）委員 : 中城村は子育てしやすい村と大きく掲げているので、子育ての所にも保育士確保の項目はあったほうがいいと思う。
- 事務局（比嘉課長） : 12月議会の補正で、潜在保育士の就職の場合は村で10万円出すという方が試験スタートすることが決まった。現実的にみて、採用を促すと来てくれる人はいるのだろうか。
- 比嘉（春）委員 : 園長会で話が出たが、使い勝手が悪いという印象だった。潜在保育士は理由があって家にいると思うので、それよりは新人さんや若い方への支援（就職祝い金など）を考えてもらいたい。ゼロとは言わないが大きな意味はない。
- 平安委員 : 制度を誰も知らないと思う。制度ができれば就活をしている学生さんに対してわかるようにした方がいい。採用されて、ついでお金ももらえてラッキーではなく、そういう補助もあるというのを知った上で選んでもらえるようにしないとけない。
- 事務局（比嘉課長） : ありがとうございます。充実させたくて予算が通っているので、今の意見を担当課に伝える。実効性のあるものがあると思う。
- 神谷委員長 : 総合計画だけでなく、色々な場で議論しながら施策をつくれる村で合ってもらいたいと思う。指摘4つ。
P53 地域福祉の周知啓発の促進と地域活動の活性化→具体的に何をすることがわからない。他にも何か所がある。〇〇などの事例を入れる。
KPIの書き方。評価Ⅱ、イベントをすることが目的ではない、イベントはあくまで手段。何のためのイベントなのか読み取れるように。指標としてイベント

実施回数を入れることはダメではないが、できれば少なめに。

P137 職員研修は内部研修に読み取れるので、県や国がやっている研修にも積極的に参加してほしい、というように読めるように入れてほしい。人脈作りも含めて職員の研修の場は入れて欲しい。

先日不発弾がでてきた。ここ数年不発弾探査依頼が減っているらしい。公共はするが民間は依頼すらしめない。不発弾というものに対して村として何か計画があるか。地域防災計画には書いていると思うが、安全・安心の部分に村として不発弾対策というのは書かなくていいのか。

- 事務局（比嘉係長）： 公共工事の際には当然やっている。個人が住宅を建てる場合には県からの補助があるので、その広報はやっている。村独自では補助や計画はない。
- 神谷委員長： 村補助はなくていいと思う。国補助で県が窓口となり調査しているが、依頼自体が減っている中で先日の事故だったので気になったから確認した。
- 事務局（ST 森口）： 成果指標Ⅱの考え方。P99 生活環境問題への対応に対して指標が広報誌掲載回数となっている。広報誌での周知啓発が確実に行われたことによって指導勧告の件数が減ったという成果指標になると考えられる。指導勧告の実施回数を把握し、広報を適切な回数行うことで指導勧告の回数を減らしていくという設定の方がいいのか。
- 神谷委員長： 指導勧告が村主導であればそうだし、住民の苦情が減る方がいいのか指導勧告の回数なのかは判断だが、最終的な目的は生活環境問題が起こらないこと。その手段として広報誌掲載をしているが、いいのか悪いのか。先ほどの保育士の話もそうだが、保育士の確保が目的なのか安全な保育環境をつくるのが目的なのか。どちらにしても解決すべきは人不足なので、その対策には10万円がいいのか他の手段がいいのか。10万円を配ることが目的ではない。
- 事務局（ST 森口）： 広報の媒体、内容など複数の視点に渡る検証が必要になる。その観点からすると回数のみで乱暴だったと思う。指標分類Ⅱについては、直接的に行ったこととやった結果どのような効果があったかの因果関係を整理して組み直す必要がある。各課のマンパワーの部分、間接的に波及していく効果検証のレベル設定を精査してもらおう。
- 神谷委員長： 指標自体を変えるなら変えていい。変更できないのであれば、文章の中でこういう取り組みの中でこうしたいから、そのためには広報をすることに意味がある、という事がわかるようにしておくべき。今の内容では振興審議会の意見に耐えられない。振興審議会を受けた後に作る総合計画となったときに説明ができる表現方法を取っておいた方がいい。何のための、が読める形にしておく。
- 事務局（ST 森口）： P99 清掃活動の継続実施となっているが、清掃活動への参加人数の方が適しているのではないかと思ったがその理解でいいか。
- 神谷委員長： 協働の視点でいけばそうなる。

4. スケジュールについて（説明：比嘉係長）

- 安田委員： この計画書は全世帯配布になるのか。
- 事務局（比嘉係長）： 全世帯配布は考えていない。公民館や関係機関、公共機関には配布する。
- 安田委員： P10-11 英語がある。自治体にも配布するならお年寄りも見てわかるように。カタカナを振る（ルビ）とか意味を書くとかした方がよい。体裁も整えるように。
- 神谷委員長： 次回は2月で日程調整していただければ

－終了－